

Nº 806 BASTOS, 17 de SETEMBRO de 1965 O PROGRESSISTA REG. N. 4576 S. Paulo A. P., N. 2695 São Paulo A. P.

九
又
人
通
報

頂針

西龍吳晴

○病院を立ち廻れにするな
先日病院の前を通つたので一ホ工事場
を覗いてみたら内部は八分通り出来つて
いた。検査台を置く室は全部タッコ張り、
待合室、検査室、手術室、廊下は全部タイル張
に張り替えられ、あとは掃除をして磨き
をかけ硝子拭きをすれば一応出来上る様
である。手術室を新式なものにすると
が洗面所鏡などの器具、水流便所設備品、
脚光器(日光を照らす)などの取付をした
リまだまた一ヶ月では完了とはならな
いだろう。玄関入口はクルマで横付けに
なるよう階段をやめて軽い勾配をつける
そうだがまだ工事にかかるといない。病
院を囲んでいたユーリ樹林は殆んど伐
りつくされ、この清掃にもまだ相当の人

付辺の片づけもすみ、内部外部の壁面
化粧がすみ、すべての什器がとくのつた
らすばらしい病院となるだろう。
ここに名医曲渕先生が据つて脈をとり
或は鍼刀治療に当るとことだから、
まことにうれしいことはない。

病院の建物、今から三十五、六年前の建築で、それ程古いとは云いかがたいけれど最近までの荒療振りは、すい分ひどいようだつた。今日のように水流する所は渠であつて廊下であつてタイルで張つてあけたのは、よかつたであつたが、木材を使用してみるのでは板がソネたり、ハネたりしたのである。つまり病院としての設計をあやまつていたことも考えられる。屋根裏なども近代式に鉄筋や鉄骨を用い、屋根瓦もセツタイわれないものを使用すれば、ひくともしないであろう。

次に考えられることは建物の管理である。最初七八年はブテ拓直営、次の十年位かバストス産業組合経営であつたから、営繕費はその時の経営者が管理の任にあたり、建物 자체も、ひとく損傷する程でなければ、た車は常に小修理を加えていたからであろう。大修理をした記憶はない。

文化協会に移管されてから、年代からいつて恰どいたみがあらわれ始めることがになり、経営の都合上、一人の医師にまかせ、営繕を顧みないような方針をとつ

Sapataria Bastos



HOTEL USSAM

ホテル
お泊りは
ゆきとどいたお部屋

二
ラ
さ
ト
ス
キ

電話二十二番



土日は「うさみすー」
外に「やきそば」
料 理

第八〇六号
昭和四十年
九月十七日
登行

DIRETOR
KOITI MORI
REDATOR
SHION ODA

RUA PRES.
VARGAS 188
C. POST. 112
FONE 40
BASTOS
C. P.

ANUAL
CR. \$
2.500,-

たと思われるが、たとえていうと騎手に馬を貸して儲けてもらつたのは、よいが馬は乗りつぶされてしまつた結果である。結果からみて仕方はないが、時の勢でどうにもならなかつたといふ外はない。こんど立派に修理ができ外観内容とも奥地にまれな病院となり、しかも名医パウロ国平が評判をとり、門前踏きをきわめることとなればこの上の廢ひはない。病院が繁栄して目出度いとは奇怪な雅言だが、患者がなくて潰れるよりよいだろうと解して呉れ給え。

なく、それはドドールのものであり、ガラス一枚わざてもその修繕費は文暢である。ドドールと契約をしているからだが、又その様に優遇しなければ、よいお医者さんには中々避地へは来て下さうんのであろ。将来、ドドールがふえて、病院を貸して道具の消耗間が年をとつて身体がいたむよに病院もいたむ。二二二三年で再び大修理費を要するような破損が生ずるとは考えられないが入院費はこれからどの様にして捻出するりか。病院の修理工事が終つたら、お祝いの演芸会を催すとか、シユラスコ会をやるとか、それをかれこれいいうのではないが、一般的の寄付者がた、それはバスコ会員に及ぶあひただしい数にのほるが、修理費は、これから結構だとはかり、年枚レで喜んで居す、再び荒療に帰さないようになりますにはどうしたらよいが、そのこともついでにお考えねがいいたいものである。画家が龍を画いた話がある。ヒタキ生やし牙も恐ろしげだ。だが眼を描かないではほんとうの威容は備わらないだろう。この御寄付で先づして、せつかく多數の方病院でもその通り、せつかり美威を掲げしめないようにするには、次の修理費を再び寄付に伸がないうよに、今から準備する必要がある。病院の点晴即ち目玉を入れる準備をととのえておきたいと思ふ。これは文場に道言するのではなく一般バステンセの方々の理解への提言である。だがいなしになりますよとの忠言に外ならぬ。今はせつ力で草も生えないが、兩期にでもなると、毎月除草してもあの庭のことだ。忽ちヤフヲテになる。

ここまで書いたついでだ。ではどういふ案で営繕費を捻出したいか。二つ程提案して見ると、

人テキな髪型
美人になる
すばうしい美容
は
島本美容院

美人になる

皆様のお好みに応じて
髪型させていただきます

Salão Shimamoto



Foto Shimamoto

ハイテクデータの写真は
ハストス警察署御指定写真館で

後半の一万余コントを算付いたよ

B、文協所屬の貸住宅を
し、金利を計る家賃くう

C. 文場が借主になつて
五十コント級の公債をつゝる

巢つた金を基金として全體は常に資産となり

な長期の借りとなるが、本
きる組織にしておかねば

元は病院と文場とは別々

アといふ田舎は収入皆無の
つてしゆう・バストス

最近では、ベネチエンで
けではないが、役員は双

書けは際限がない。吾

多言士の御教示を仰げり

安者系音一

Tempo de Alta Qualidade
Glutamato de Monosódio 99.9%

SUPERAGI

サンパウロ市 ガルボンアエノ街ニ一二 七階

発売元 遠藤貿易株式会社

スルバード味

天どん草問、京

彌

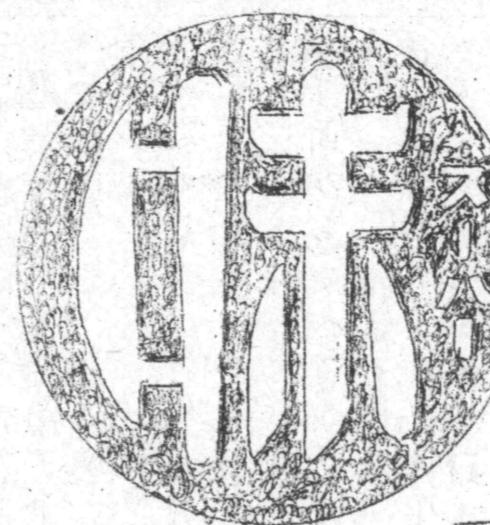
東京田村町

天どんしじみ汁、新香の一セットで百五十円。外のものは作らない。その日のネフは、サイマキエビとキス、揚げ方と赤茶け、ツユの味が濃く、なつかしいオールドスタイルの天どんである。それもその筈、下町生れの新潟玄優、京塚昌子さん経営の店だからである。

天どんなら八〇〇〇円には行くまいが、料理のこつはスープ味がかさ

どのお店にも

ございます



日本観光誌 第十三報の二

阿蘇 真木 諭吉

バスは新装なつた延長三百キロの九州横断道路を快適に西へ西へと疾走る。やがて由布岳の山腹を縫つて海拔五百米の湯布院に登る。此所から下りとなり九重連山に抱かれた広大な面積でこれが噴火口だつたとは信じられない程である。此の連山から金地へ下る道路は恐ろしい様な急勾配を曲りくねつて行くので、あんな道である。阿蘇高原は九州の中央部に位し九州の屋根をなす活火山で右より桙鳥、鳥帽、中岳、高岳、根子岳のアソ五岳が悠然と聳え立ち、中央の中岳から噴煙が湧々と立ち昇つて居るさまは實に壮观である。

阿蘇の町は別府とは余程卷いと見え三月末の今尚梅の花盛りである。バスの終点阿蘇神社前で下車、参拝後口一駅左、直經四百米、深さ百二十メートルの長閑さが傳はれる。その夜は旅館で

から不気味を餘りと共に渦巻き昇る噴煙は例えよらない物凄さである。爆音と共に立ち昇る煙は天に冲し、その壯大さは吾々の拙筆では到底表現できるものではない。アソの景觀は、その広大な外輪の連山によつて一層の雄大さを増し、登止者が吹き上する風の寒さと噴煙の悪臭に堪めは何時聞見ていても飽きることはない。アソの景觀は、その広大無比の連山の周辺を觀察すると、其の昔大火山の切れず三十分钟后下山した。この中岳の周辺を観察すると、其の昔大火山の動で流出した熔岩の跡が歴然として現われている。噴火当時はさぞ壯絶をきわめたものであろう。

壯麗なアソ山にも美しいマスコット山塚がある。摺鉢型の山で全山緑の草に覆われ可愛らしい山である。阿蘇の雄大壯麗の大觀は飽きることを知らぬが一ヶ所に何日も居ることは出来ないので、まだ時間もある故熊本市まで出ることとした。

熊本



C.P.

4

翌朝は先ず熊本の象徴たる熊本城へ行く。此の城は慶長六年加藤清正が築いた名城であるが、陳列館となつてゐる。城の様式が他の城とは遠い屋根が六方に造られ風夏りで中々美しい。城の内外には桜の大木が沢山あるので満開時はさぞ美しく見事であるが、まだ三分咲き位で残念だった。熊本市は阿蘇山麓にある森の都で知られた町で春夏は林の森に包まれ、水前寺公園、花岡山など景勝の地も多いが水害の恐れのあるような場所に位置している。次いで水前寺公園を見る。園内は東海道五十三次を型取ったもので、泉木や築山芝生、松や岩などの配置がよく調和して、とても美しい庭である。

次に花岡山の佛舍利堂に参拝した。これは桜の名所だが、まだ二三分咲きはじめたばかりで花の薰りは漏洩できなかつた。山頂から眺めは熊本全市を一望の裡に收めよい展望であった。まだ宿につくのも早いので三角まで行く車にした。

雲仙 小浜めぐり

バスにのつたが東回りなら逆かつたのに知らずに西回りにのつたので大回りで三角に着いたら夜の八時だつた。翌朝一番の連絡船で島原に渡り雲仙に行く事にした。連絡船は二千屯もある豪華船で四五百人の乗客だがこれらは豪華船の殆んどが雲仙行きである。八時頃島原に着いたので一寸島原を見物するなどにした。ここは雲仙の東玄関で昔の小さな城下町であるが幕府の圧迫に堪えかねた結果、此の城趾には一揆の怨恨の裏史と墓碑が残されている哀愁の地である。島原で徳川幕府が十三万の大軍を差向けて数ヶ月を要して漸く落した難攻不落の名城だつたのだ（一六三七年徳川家光時代）。島原の乱は日本に於ける宗教一揆では最大のもので日本の近代史に大きく記録されてゐる。

バスのセンタもあつて便利である。蘇山も見える。

雲仙は日本最初の国立公園で普賢岳を中心には國見、妙見、野岳、矢岳などの名稱で湯の町は温泉地獄のすぐ側にあり、豪壮なホテルや旅館が立ち並び、汽車の駅は温泉地獄にはお糸耶見、大叫喚清七、八万兄弟坊主算々がある。尚弓の名はの口ケ

雲仙小説

翌朝は先ず熊本の象徴たる熊本城へ行く。此の城は慶長六年加藤清正が築いた名城であるが、当時の天主閣は西南の役に焼失し、昭和三十五年第一第二の天主閣が再建され、城に関する資料や遺品の陳列館となつてゐる。城の様式が他の城とは遠い屋根が六方に造られ風夏りで中々美しい。城の内外には桜の大木が沢山あるので満開時はさぞ美しく見事であろうが、まだ三分咲き位で残念だった。熊本市は阿蘇山麓にある森の都で知られた町で春夏は緑の森に包まれ、水前寺公園、花岡山など景勝の地も多いが水害の恐れのあるような場所に位置している。次いで水前寺公園を見る。園内は東海道五十三次を型取ったもので、泉水や築山芝生、松や岩などの配置がよく調和して、とても美しい庭である。

次に花岡山の佛含利堂に参拝した。ここは桜の名所だが、まだ二三分咲きはじめたばかりで花の薰りは漏洩できなかつた。山頂からの眺めは熊本全市を一望の裡に收めよい展望であった。まだ宿につくのも早いので三角まで行く事にした。

金二十コントス也
右、地蔵尊建立の資金として
段ありがたく御礼申上ひま
九月五日 川辺い
アレシチシテ フルヂンテ

二十九日
九月五日

御所 病院 うら 元の恩賜病棟
主任 梅津 爰子

いつでも受けます
も教えています

右、地蔵尊建立の資金として御寄贈の
額めりがたく 御礼申上げます

二十ニントス也

お宅の子供さんに
日本語を習わせましょう
学ぶは一時の幸棒シノオウ
知らないと一生の損ソン

死亡通知並に会葬御礼

二男、貴之（三ヶ月）儀去る九月三日午後一時二十分、突如急逝いたしました。依つて翌四日前十時出棺、バストス墓地に埋葬仕りました。此の段
屏知の皆様へ御知らせ申し上げます。

追々て華儀の節は御多忙中にもかかわらず遠路わざわざ御会幕下され、そ
の上多大なる御香料花輪など御供贈賜わり、御芳志の段まことにありがたく
厚く御礼申上げます。一々拝眉の上御挨拶申上げねはなりませんが、取込申
につき御寃怒願い、畧儀失禮ではござりますか、紙上を以つて御礼申上げま
す。

一九二五年九月五日

ノストノ
ニ子ノ区

卷之三

1

郎之子夕溫

內全
馬場

長男

卷

コチア産組バストス倉庫様
バストス南米本顧寺様
バストス仏教婦人会様
バストス在住各一位様

舟がオランダ領事や商人のために埋立て作つたもので、この狭い場所にオランダ人は封じこめられていたのである。この出島と旧市街の間に七つの石橋が架けられて居り之れを一目七橋と呼び唐風の石橋で長崎の歴史の盛衰を物語り旅人の鄉愁を叫んでゐる。

次に大浦天主堂に参拝、十六番館を見てからバーレル邸に行く。此所は南山手の小高い坂にあり、美しい庭園から長崎の港も一望に収める良い眺望である。だがこの屋敷では国際結婚でいとも哀しい悲恋の哀話を残して桜の花と共に、はかなく散つたお蝶夫人の一生を閉じた屋敷で、屋敷内にはバーレル氏やお蝶夫人の遺品が保存されてゐる。又オペラでお蝶夫人を演じ世界的オペラ歌手になつた三浦環女史の銅像がある。

バスは一転して崇福寺へ行く。此の寺は唐風の辯を尽して建設された古寺で寛永六年明の僧超然の開山に依る。上段の峰門や大雄宝殿は国宝建造物に指定され居り今ひ旧脣宇蘭盆には賑う由

次は眼鏡橋を渡つて興福寺に参拝した。此の眼鏡橋は半円弓の土台の上に架けられていて水面に囁く影を遠方より見つかる。眼鏡橋は半円弓の土台の上に架けられていて水面に囁く影を遠方より見つかる。

橋の架設は寛永十一年唐の僧如是が架けたもので日本初の唐風石橋である。興福寺は奈良の興福寺を小さくしたようないでいる。是れでAコースを終り、次はBコースに乗り替える。バスは三菱製鋼所浦上駅を経て国際文化会館に着く。

下車して原爆記念品や原爆落下趾平和記念像など見学したが、原爆落趾記念品を見ると広島程の被害ではないようだ。次は如己堂、浦上天主堂、長崎医大山王神社、諏訪神社、二十六聖人殉教の地を経て、三菱電機、三菱造船所を見る。諏訪神社の祭礼は日本三大祭の一につに救えられるという大祭で三日間豪華御爛だ。お上りお下りの奉納踊りの絵巻かく玄はうれる由である。

前に書き落したが大浦天守堂には此所の殉教の地で極刑に処せられた二十六聖人の靈を祀つて居るのである。長崎は三菱の鉄鋼電機造船などの重工業を始め、珊瑚甲の細工品古賀人形長崎人形、オランダ船唐船など美しい土産物の数々があり、商業と観光とを兼ねた近代都市に生れ変わった感がある。午後三時異国情緒の長崎に別れをつゝはる行列車で佐世保に向う。汽車は諫早へ後戻りして大村彼杵諫早駅を過ぎ、又方佐世保についた翌朝市営観光バスで西海国立公園巡りに出発。諫早に行き川かと思われる十米突程の帶のよしを早岐の瀬戸を渡り、針尾島の鳥越古里を経て針尾瀬戸に着きここで下車。針尾島と西彼杵半島に架けられた西海橋を歩いて渡り又歩いて帰り水族館を見ながら十九島巡りの観光船と待つ。

特別集会案内

ホーリネス教会
ラジル宣教四十年記念

日時 九月十七日(金)十八日(土)

九月十九日(日) 三日間
毎夜七時半より

講師 作間一雄 牧師

ロードリーナ 教会牧師
ハーストス出身 元トッパン教

講師 山崎長文 牧師

ロードリーナ 教会牧師
会牧師 現在フルデンテ教会

尚、十九日の日曜は正午十二時より
礼拝、聖餐式が行われます

場所 ハーストス ホーリネス 教会

「私は生命のパンなり」
イエス様の真理の教言に
耳を傾けてみましょう

ハーストスの皆様、どなたの

御来聴を歓迎いたします

金一封也 御次男貴之坊ちやん
の御急逝を深悼いたします 尚表記御

寄贈を感謝いたします

ハーストス 佛教婦人会

仙人掌 九月作品

馬の乳吸うて牛の子草萌ゆる 耕雨
初雷に七面鳥の群鳴け る

羽搏きて馳ける栗鶴下萌ゆる 声
追えはとて逃げぬ捨馬下萌ゆる 桂子

音バーンの読み声 初雷す
初雷や強雨に光る 輔装道

起き出で廁は暗い 春の雷
詰題なき夫婦であり木の実植う

新市街本家分家に木の実植う 米子
掠奪農は過去の詰よ木の実植う

初雷か雷旗が街ひく
嘘の氣をしか小花散らしつつ

貨に木の実葉藻でありにけり
すねで、マツカリ返事下明ゆる 北眠

御知らせ

豆腐製造マキナ式

家事の都合でおゆおりします

素の方にでも得心の行く教えます
フレトイズは待つて居りますから、
作りさえすれば立派に商売になります

一ヶ月収入リーブル
二百コントス以上 確実

御希望の方はおいで下さい

原野立美

セネラルオフィス不銹

訪日御挨拶

拝啓 春暖の候と相成りました。皆様には愈々御清榮の御事と御慶び申上げます。

此のたび次男和夫儀(エルナンド・ボリス、裁判所判事)日本外務省の御招待による短期研修生五名の中の一人として一行五名と共に、又全伯一の養鶏王シヤカラ区の小沢勇氏御夫妻とも同乗機で去る九月五日夜コシゴニア空港を出発致しました。出発の際には御丁寧なる御祝^辞と共に多大なる御餞別を賜わり又は盛大なる壮行会を御催し下さいまして御厚意の数々誠に有難う御座いました。研修五名中小林平行様と和夫と二人までもバス^{トス}出身とは、げにバス^{トス}の誇ぞ、バス^{トス}の榮誉を擔う栄ある研修生そよとまで身に余る讃辞と祝福をバス^{トス}愛に溢るる皆様より賜わリまして私共も感激に胸誇りを感する」と喜びを以つて語つて居りましたが、かくもバス^{トス}を一はいで御座います。和夫も常に「バス^{トス}を故郷に持つことに大なる愛する皆様より讃辞を頂き身に余る光榮と感激と感謝の念にかられて居りました。吳々も御礼申上^げてとの事で御座いました。

皆様に御礼に参上致さねば失礼とは存じますが週報紙を借りまして厚く御礼申上^げます。皆様本当に有難うございました。

一九六五年九月九日

力スカツタ区
渡部 喜
き
わ助

バストス御在住各位様

コチア産組バス^{トス}倉庫組合員各位様

在聖バストス会の皆々様

生きた小説

二十年ぶりで祖国へ帰る

旧滿州国で終戦を迎へ苛酷な収容所生活で父母と妹を失つた僅か十歳の少年横堀義雄君は中国人農夫に助けられ、長春外国语学校で先生となつて、その後伯父一家と連絡がつりで日本へ帰った。

横堀一家の富雄氏はギリシヤ語、独伊などでのきる言語学者だつた。が戦時中の重圧に耐えかね活路を求めていた。ちようどその頃満州密山の農業大学開拓団の学生の世話をたのまれ、昭和二十年夏の家族四人と共に日本をはなれた。

朝鮮の元山から汽車で牡丹江に着いたのが昭和二十年八月七日の夜。翌日、連が参戦し牡丹江の町のサイレンが鳴りびきはゆく。空襲がつづいた。

つけたばかりの横堀一家は、まるで死地にとびこみに入つたようなものだつた。町の鉏踏をにふまわる内幼い妹は自動車についたはかりの横堀一家は、まるで死地にはねうれ前歯が何枚か折れた。町の病院に泣き叫ぶ妹の醇子を母が抱いでかけられたが、病院は空襲による負傷者が廊下にあふれ、手当てもしてもらえないかつた。仕方な外の日本人と一緒に朝鮮の方に向にハメシで逃げた。戦日か山中に放浪したウミコシやジヤイモを主でかじつた。

日本人は全部で一千人いたようだが、やがて寧安県東京城の収容所にいれられた。日本人は全部で一千人いた。

八月二十日にソ連軍がきて収容所はそんの管理下におかれだ。横堀義雄氏は外国语がでさるので、連兵は重宝がうれ一家の待遇は悲惨ではなかつたが、その内、村の自警团が代つて管理する。全くひどい事情になつてしまつた。

食事はそこのままのアフを少量、塩がちよびり、それ各自が裏山の干裂窓で十へて煮ておかねにしてすする。飯と米養失調と、その上さびしい寒さが加わつて、毛布は四人に四枚の配給、一枚毛布だかう寒くて寐られない。書齋人の富雄氏は真先に弱つて十月二十日の朝毛布をかぶつたまま冷たくなつていた。裏山へ沈を掘つて死体を埋めた。富雄氏は四十五才だった。

母は父のつかつていて毛布で二人の子供にチヤンチャシコを作つてさせたがある日残りの毛布二枚を盗まれて以後母子はあわれな毎日がつづく。叔容所全体が暗い表情である。毎日たれかが死んでゆく。隣りの人の悲惨な死が、いつ自分の身にふりかかるてくるやう。

彼岸御案内
の申日

本部長代理瀬辺先生御参勤
秋の彼岸御法要勤行されますから
皆様おつかれの処恐れ入りますが
お誇い合せ御まいり下さいます様
御案内いたします。

ハヌトス南米本願寺
在勤 小林平志

薬局見習生

夜学に通うことがあります

サキ薬局

ノルニ一月に、運営が主に外國人
の管理下におかれた。横堀義雄氏は外國
語がでさるので、連絡に重宝がられ一家
の待遇は想像ではなかつたが、その内、
村の自警团が代つて管理すると、全くひど

事情になつてしまつた。食事は元のままアワを少量、塩がちよゝかり、それを各自が裏山の手製窯でナヘで煮ておかゆにしてすする。飯と米養失調とその上きびしい寒さが加わつてまた、毛布は四人に四枚の配給、一枚毎にかかる寒くて寐られない。書齋人の富雄氏は真先に弱つて十月二十七日の朝毛布をかぶつたまま冷たくなつていた。裏山へ穴を掘つて死体を埋めた。富雄氏は四十五才だった。

母は父のつかつていた毛布で二人の子供にチヤンチャンコを作つてさせたがある日残りの毛布二枚を盗まれて以後母子は一枚の毛布にくるまつて夜をすこすこあわれな毎日がつづく。

収容所全体が暗い表情である。毎日たれかが死んでゆく。隣りの人の悲惨な死が、いつ自分の身にふりかかるくるやう

のではあるまいか
衰弱しきつた母は醇子を抱きしめて声
を絞つて云つた
「あ母さんか死んでもしゃかり生きぬ
くのよ醇子をかわいがつてね」
十才の少年はアワのオカエを戻さじ
か母の口にふくませた。亡き父富雄氏の
死後一ヶ月たたない十一月十六日の朝
ふとさわつてみると母の手は氷のようにな
冷たくなつていだ。彼女も眠つたまま
亡くなつてしまつたのだつた。
土が力力チに凍つてゐるので彼女の
死体を埋めることもできぬ。やむなく
野菜貯蔵用の穴に埋め妹と一緒に手を
合せた。
いよいよ、みなで子になつてしまつた
古つた一枚の毛布にくろまつて妹の醇子
と寝たが寒さはものすくへつづく
るえと寝つかれなかつた。

死 亡 通 知

並に会葬御礼

夫、満秋、儀永らく病氣療養中の処
薬石効なく、去る九月八日午前十時
四十五分リンス病院にて死去いたし
ました。享年四十三才で御座いました
た。遺体を当地に連れ帰り、翌九日
午後自宅出棺、バストス墓地に埋葬
致しました。

此の儀御親交を賜わりました方々へ
謹告し且つ御礼申上げます。

尚、送葬の節は御多忙中にも拘らず
遠路態々御会葬下され、其の上過分
の御香料花輪など戴き御厚志の程厚
く御礼申上げます。

実は一々御挨拶に伺うべきですが何
分取込中にて其の意を得ませず失礼
をかえりみず紙上にて御礼申上げま
す。

一九六五年九月十日

喪主 妻 緒 方 貞

長男

父 緒 方

足 外

親

板

垣

戚

時

嘉

泰

一

太 熊 同 夫 作 己 子

友人代表

村

上

壇

戚

時

嘉

泰

一

作

己

子

バ
ス
ト
在
任
各
位
様

中
央
区
第
四
組
様

バ
ス
ト
斯
佛
教
婦
人
會
様

連
合
佛
教
會
様

連
合
仏
教
婦
人
會
様

公
益
チ
ッ
ク
ル
ラ
ボ
ル
様

州立中学一、二年生
バス山口県人様

板垣義熊様並に村上寿太様を友人報
いに致しましたが、実は故人満秋にと
りましては大恩人にて歎々の御厄介に
なつて居り御礼の言葉もございません
茲に訃述して報恩の一端と致します

緒 方 貞 子

8ページの下段よりここへつづく
二つしかな茶碗が何者に溢まれた。
妹の酵子は栄養失調でそのうち泣く元
氣もなくなり毛布にくるまつて苦し
うな息づかいをしながら十一月三十日
母の死後二週間でそのあとを追つた。
中國人に救わる
緒少年はたつた一人放げたようにな
と恐怖でほんやり横わつているとある日
近村の高俊臣という農夫が少年を拾い馬車
にのせて彼の家につれていった。
高さんは東京城から西へ八里の山村に
住んでいた中農でその頃三十三歳であつた。
彼は人格の高い立派な中国人である。
高さんは少年に高徳才という中国名を
つく我が子にまわる愛情を注いだ。
少年は高義父のおかげで長春の東北師
範大学を卒業した。家族も皆心の温かい
人たちで長男高徳令は徳才少年より一つ
年長だが同級生で小学校から牡丹江の小
師範に入学。そこを卒業して依蘭県の小
学校教員になつた。兄の徳令はハルヒン
に近い五常県の教員となつて赴任した。
今はもうジムスの校長になつている。新
生中國になつて学費はかからなくなつた
が、汽車賃だけの雜費は相当かかる。それ
が高俊臣は、いやな額一つせず出してく
れ、しつかり勉強せよ」と常に励した。
村人からも寄宿生たちからも差別され
たことは一度もなく、凡の一隅にあら東
京の叔父のことも、いつか忘れがちであ
た。徳才は小学校教員三年勤務の後、今度
は長春の東北師範大学に入り中国言文学
系攻した。このの校長は成仿吾といいう學
者で郭沫若、郁達夫などと肩を並べる
人である。
その頃から中国政府は学校教育に力を
入れ人材養成に熱を入れていた。従つて
教育者になら事は万事好都合であつた。
師範大学四年卒業後、吉林教育学院大
学の助教授として赴任した。そこで三年
勤務。次に長春外国语学校へ赴任したが
ここで日本語を覚えるつもりだった。中國
には外国语学校は十校あり、日本語と
ロシア語が多く、上海は英語、広州はフ
ランス語科がある。長春外語には生徒二
百五十人。
徳才先生の月給は六十二元、この内か
う寄宿費二十五元払う。食事は教員食堂
で朝はマントウに粥で、昼は定食、夜
は軽食、室は単独室を与えられた。いた
中国の学生は明朗でまじめだ。教員仲
間で「政治的な「學會」があるが外国人た
者は出席されない。以下へ次号へ」

